

第2部

基礎編

地区防災計画を作ってみよう！

地区防災計画の項目例、計画作成の進め方やそのポイントを紹介しています。

なお、本編は、第4部「地区防災計画の様式と記入例」、第5部「資料編 各種様式と参考資料」を参照する形式で構成しています。

1 地区防災計画の項目例



地区防災計画は、地区の特性に応じて、自由な内容で作成できるようになっています。地区居住者等の意向を反映し、「実践できる計画」を作成しましょう。

■地区防災計画の項目例

出典：地区防災計画ガイドライン（内閣府）

1 計画の対象地区の範囲

△△市△△町



防災活動を実践する範囲を指定します。

2 基本的な考え方

- (1) 基本方針（目的）
- (2) 活動目標
- (3) 長期的な活動計画



地区の課題を踏まえ目的と目標を示します。

3 地区の特性

- (1) 自然特性
- (2) 社会特性
- (3) 防災マップ



市町村が作成するハザードマップや過去に発生した災害をもとに地区の状況を確認し、記録します。

4 防災活動の内容

- (1) 防災活動の体制（班編成）
- (2) 平常時の活動
- (3) 発災直前の活動
- (4) 災害時の活動
- (5) 復旧・復興期の活動
- (6) 市町村等、消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携



実際の活動場面を想定し、具体的に記載します。

5 実践と検証

- (1) 防災訓練の実施・検証
- (2) 防災意識の普及啓発
- (3) 計画の見直し



計画の実効性を検証し、定期的に内容を見直します。

進め方 11ページ参照

様式 61ページ参照



[ポイント]

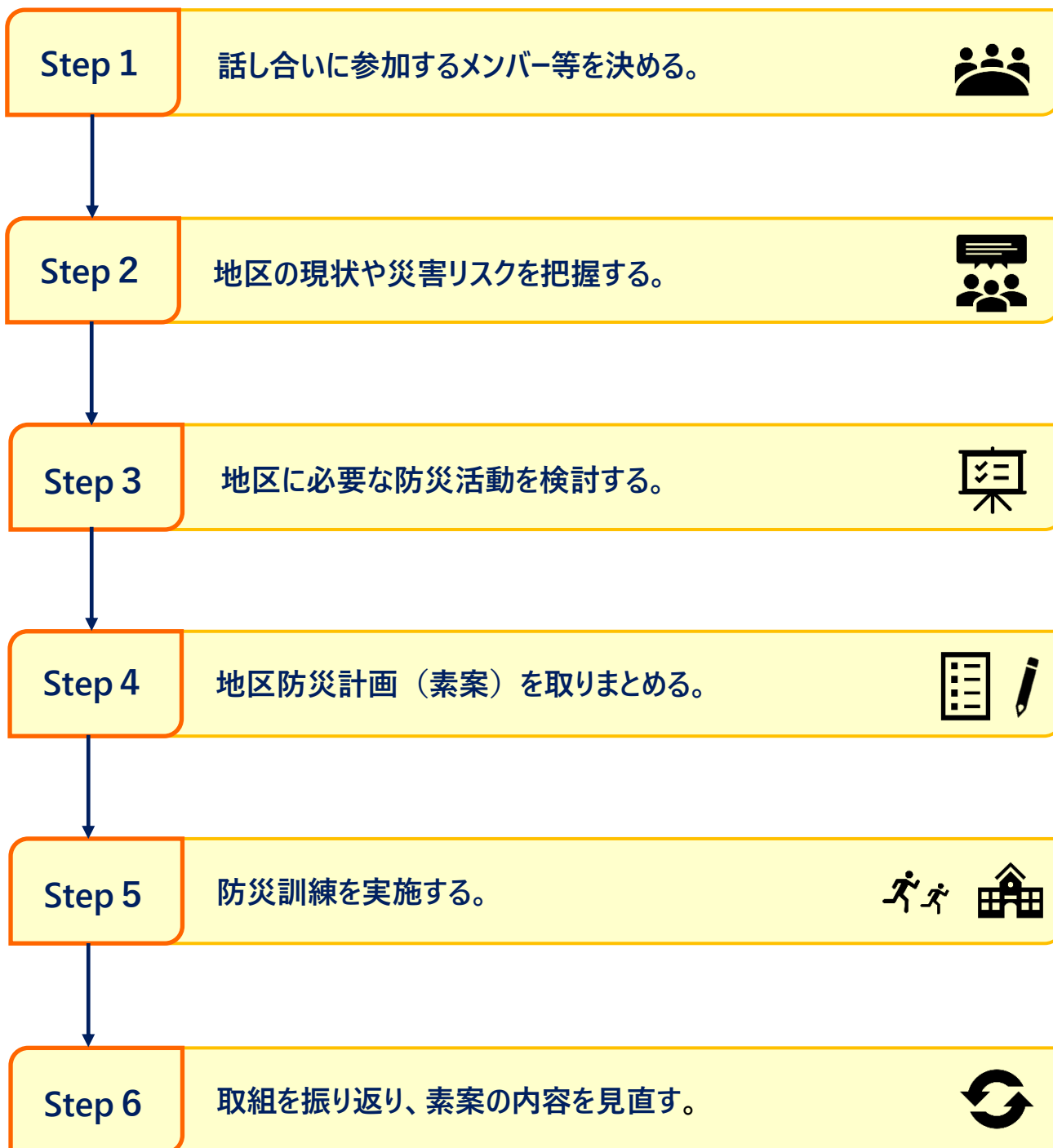
- 最初からすべての項目について作成する必要はないよ。「小さく始めて大きく育てる」という意識を持って、少しずつ取り組んでみよう。
- マニュアルの後半では、赤枠部分の記入例を紹介しているよ。参考にしてみよう！

2 地区防災計画作成の流れ

地区防災計画に記載する項目や作成の流れは、特に決まっていません。

次に紹介する手順を参考にしながら、それぞれの地区にふさわしい進め方で計画作成に取り組んでみましょう。

[計画作成の流れ]



Step 1

話し合いに参加するメンバー等を決める。



▶ 基本的な取組体制を考えてみよう！



- 地区防災計画は、防災の取組に対する関係者の共通理解を図るため、話し合いを通じて決めたことを「共通ルール」として文書化したものです。
- 大切なのは、話し合いを通じて「共通ルール」を決める、その過程です。
- 計画作成の取組を通じて、地域のつながりを大切にした災害時に助け合う仕組みをつくることを目的としています。

■ 計画の作成主体、活動する地区の範囲や目的を決める

- ✓ 防災も地域づくりの1つです。参加者を幅広く求めることにより、さまざまな立場の意見等が得られ、平時及び災害時の防災活動について、深く議論できるようになります。

[参加者の例]

市町村職員、自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、防災士、民生委員、社会福祉協議会職員、子ども会等の各種団体 など

- ✓ 自治会等の既存組織の中に話し合うグループを設けてみましょう。地域づくりの一環として防災を話題にすることで、組織内の横のつながり（例えば、防災と福祉の連携）が生まれ、効果的な連携により、課題解決に向けた取組の相乗効果が生まれやすくなります。

[ポイント]

- 話がしやすい範囲を考えてみましょう。目的や目標を決めると、その達成のために必要な関係者の範囲や取組内容も決まってきます。
- 地域の実情に応じて、様々な作成主体が考えられます。
- 地域で防災や福祉に携わる方をはじめ、様々な立場の方々の参加を求め、それぞれの視点で意見を求めましょう。幅広い世代の男女の参加を求めるなど、視点が偏ることのないよう工夫をしてみましょう。



[作成主体例の比較（再掲）]

組織	例	メリット	デメリット
単独組織	既存の組織を活用して計画を作成するケース (例) 自治会、町内会、自主防災組織	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 取組に着手しやすい（例：場づくりの手間の省略、顔の見える関係性の構築） ✓ 将来的な見通しや活動に関する役割分担等を決めやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織としての活動が休眠状態である場合が多い ✓ 人材に偏りがある ✓ 代表者の思いに左右されることがある
複数組織	小学校区等の地域の特性や共通の目的を持つ複数組織がまとめ、計画を作成するケース (例) まちづくり協議会、自治会や町内会の連合体	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共通の目的を達成するための計画ができる（面的な広がり） ✓ まちづくりの一環として、防災に取り組むことにより、課題解決に向けて連携が取りやすく、多様な主体の参画が見込める（例えば、防災と福祉の連携） ✓ 参加者が増えることにより、特技や技能を持った人材が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織間の調整が必要である ✓ 様々な意見を集約し、方向性を出すのに苦労する

■協力者（外部人材）を確保する

○自治体職員

- ✓ 防災活動は、「自助」「共助」「公助」がそれぞれ連携して行うことが重要です。計画作成に当たっては、市町村の地域防災計画に沿った取組と地区の活動の整合性が図られるよう、自治体職員に相談してみましょう。

○防災士等

- ✓ 身近な防災の専門家として、地域に防災士の資格を持った方がいる場合は参加を求めてみましょう。
- ✓ 県では、地域の防災活動を支援するため、防災士や元消防職員等で構成する「岡山県自主防災組織支援講師団」を設置し、講演やワークショップの開催など、地域の要望に応じて、講師を派遣する事業を行っています。

詳しくは、岡山県危機管理課のホームページをご覧ください。

[岡山県自主防災組織支援講師団](#) [検索](#)

○**防災分野や福祉分野の学識経験者**

- ✓ 防災意識を高めるため、日頃から防災や福祉について研究している大学教授等の学識経験者に講演を依頼することも効果的です。

○**N P O法人やコンサルタント等の職員**

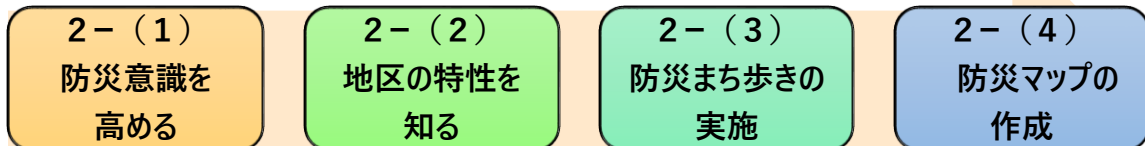
- ✓ 地区防災計画を作成する意義を分かりやすく説明してもらったり、計画作成に向けた話し合いの進行や参加者が意見やアイデアを出す作業を支援してもらうため、N P O法人やコンサルタントの職員に参加を求める方法もあります。

Step 2

地区の現状や災害リスクを把握する。



○把握のプロセス



※上記は例示であり、地区の実情に応じて取組を進めてください（上記のとおり進める必要はありません）。

▶ Step 2 - (1) 防災意識を高める



- 災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。また、災害に直面した場合、冷静なつもりでも的確な判断や行動が難しくなるものです。
- いざというときに、正確に状況を把握し、慌てず落ち着いて命を守る行動がとれるよう、日頃から災害時の備えをしておくことが大切です。
- その1つが地区防災計画作成の取組です。

▼ 正常性バイアスとは・・・

- ・考えや意見に偏りを生じさせるものを「バイアス」と言います。人は異常事態に遭遇したとき、なるべく正常であると解釈する傾向にあります。
- ・「このようなことは起こるはずがない」「信じられない」と自分にとって都合の悪い情報を無視したり、目の前に起きていることを過小評価したりしてしまい、何かの間違ったと思うことがあります。この心理的傾向を「正常性バイアス」と言います。

▼ 災害時に適切な避難行動をとれない心理状態

さあ、あなたはどうしますか・・・

- ・災害時など、危険が目の前に差し迫っていても、自分は「大丈夫」と思い込み、避難行動をとらなかったことが報告されています。
- ・正常性バイアスは、誰にでもあり得る心理状態です。災害時に適切な避難行動がとれるよう、自分が暮らしている地区の災害リスクを正しく理解し、「自分は被災しないだろう」ではなく、「自分も被災するかもしれない」という意識を持って日頃から災害に備えるようにしましょう。



■外部人材にアドバイスを求める

- ✓ 地区防災計画の作成に取り組もうと思っても、防災に関する知識や経験がないと、具体的なイメージができず、作成が難航することもあります。取り組むと決めたら早い段階で、市町村に相談し、職員や有識者等の外部人材に参加してもらい、アドバイスを求めながら進めていきましょう。

- ✓ 取組に必要な知識や他地区での先行事例等を知ることができます。

※地区防災計画に関する市町村窓口は、110 ページに掲載しています。

※他地域の先行事例

岡山県地区防災計画等作成モデル事業

検索

■楽しみながら防災について学ぶ

- ✓ 楽しむことができなければ、取組は長続きしません。

下記のような体験ゲーム等を取り入れながら、幅広い世代で防災について考える機会を増やしましょう。体験したいときは、市町村職員等に相談してみましよう。



[体験ゲーム等の例]

●災害図上訓練（DIG）

89 ページ参照

グループで行う地図上での訓練。

[初級・中級編]

- ・地区の強みや弱みを把握するとともに、災害時に活用できる資源を整理する。
- ・ハザードマップを活用し、想定される災害リスクを理解する。

[応用編]

- ・災害が発生した想定で、災害の状況や今後起こりうる危険性を予測しながら、地図に状況を整理し、災害対応のイメージをトレーニングする。

●避難所運営ゲーム（HUG）

91 ページ参照

避難所運営のシミュレーションゲーム。カードを使いながら、避難所に見立てた平面図への避難者の配置やトラブルへの対応を模擬体験できる。

●防災運動会

防災訓練をシミュレーションした運動会（担架リレー、バケツリレー、土のう積みリレー、防災クイズ等）。地域行事とあわせて行うことで幅広い世代の参加が見込める。

▶Step 2 – (2) 地区の特性を知る



- 市町村が作成するハザードマップや、過去に発生した災害の事例等を挙げながら、参加者で地区の特性を確認しましょう。
- 確認したい特性は、「ヒト」「モノ」「環境」です。これらの特性を知ることによって平時と災害時に必要な防災活動が見えてきます。
- 進め方等が分からない場合は、20 ページ（地区の特性を知る）、34 ページ（話し合いの進め方）を参考にしたり、市町村職員等に相談したりしましょう。

■作業のポイント 地区の特性の把握（現状や課題の把握を含めて）

■用意するもの ハザードマップ、白地図、付箋紙、カラーペン、丸シール（カラー） 等

[特性に応じた確認事項と検討したい課題例]

特性	確認事項	検討したい課題例
ヒト	人口、世帯数、年齢構成、避難行動要支援者（高齢者や障害のある方等）の状況、地域コミュニティの特徴	<input type="checkbox"/> 避難行動要支援者の把握と住まいの環境確認（災害リスク等の把握） <input type="checkbox"/> 住民同士、行政との顔の見える関係づくり <input type="checkbox"/> 要支援者を迅速に避難支援できる体制づくり
モノ	地区資源の状況	<input type="checkbox"/> 地区資源の掘り起こし （例）地区の強みや弱みの把握 等 強み：災害時に活用できるモノ、施設 等 弱み：インフラの設置状況、医療機関・商業施設の有無 等
環境	想定される災害リスクの把握（過去に発生した災害事例を踏まえて）	<input type="checkbox"/> 過去の災害発生箇所の把握 （例）河川や水路の氾濫発生箇所、土砂災害の発生箇所 等 <input type="checkbox"/> 孤立するおそれのある集落等の把握 <input type="checkbox"/> 避難場所や安全な避難経路の確認 <input type="checkbox"/> 危険箇所の把握

1 地区の現状や課題の把握



- 災害時に防災活動を行うためには、関係者で地区の危険箇所を把握し、地区の現状や課題を話し合うなどの平時の取組が大切です。
- 参加者が把握している情報や気づいたことをどんどん出し合い、地区の現状や課題について地図や付箋紙を使って整理してみましよう。

（1）参加者の例

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員、子ども会等の各種団体 等

（2）用意するもの

ハザードマップ（市町村作成）、白地図、付箋紙（大・中）、カラーペン、丸シール（カラー）、作業の進め方（手順書）



（3）進め方

- ✓ 地区防災計画の作成に取り組もうと思っても、防災に関する知識や経験がないと、具体的なイメージができず、作成が難航することもあります。
- ✓ 取り組むと決めたら早い段階で、市町村に相談し、職員や有識者等の外部人材に参加を依頼し、アドバイスを求めながら進めていきましょう。

（4）取組内容

①危険箇所や災害リスク等の把握

- ・土砂災害や浸水等の災害リスクのある区域等の確認
（例）土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域、津波浸水想定等
- ・避難経路上にある危険箇所の把握
（例）河川、用水路、ため池、落石危険箇所等
- ・地域に存在する災害時に利用できる施設等
（例）公園、広場、高台、ビル、コンビニエンスストア、医療機関、建設機材所有者、保健師、看護師、元消防士等

②避難行動要支援者と避難支援等実施者の住まいの位置関係の確認

- ・災害発生時の危険性の予測
（例）迂回路がなく、災害時に孤立するおそれがある
河川のそばに家があり、土地が低く浸水のおそれがある 等

2 意見等の整理

参加者で話し合った結果を白地図に書き込み、意見等を整理します。





作業の進め方 39 ページ参照

①白地図への書き込み（区分例）

区分	色	線	シール
主要道路や県道	茶色		
路地、幅員の狭い道	赤色		
公園や広場（オープンスペース）	黄緑		
用水路や貯水槽	水色		
防災上、役に立つ施設やモノ	桃色		
官公署、医療機関、災害救援機関等	緑色		
避難行動要支援者（名簿情報の提供に同意した人）	赤色		
要配慮者（気になる人を含む）	黄色		

参加者で共有しやすいように付箋紙を使い、模造紙等に情報を整理

②意見等の整理表（記入例）

地区の強み（いいところ）	こんなことができたらいいな
<ul style="list-style-type: none"> ・地区のまとまりがある ・若い世代が増えている ・高齢者のつながりが強い ・地区の特性や歴史をよく知る者がいる ・コンビニやドラッグストアがあり、食料や薬等を確保しやすい環境がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民同士の交流や協力 ・タイムライン（防災行動計画）の作成 ・地区で暮らす要配慮者を記したマップの作成 
地区の弱み（困りそうなこと）	私たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> ・水害の危険性 ・防災意識が低い ・要配慮者の把握（高齢者が多い） ・道路や避難所が狭い ・避難判断に対する温度差がある ・住民同士のコミュニケーションが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所同士で助け合う ・日頃から声かけや見守りを手伝う ・昔の地区の記録を残し、伝えること ・訓練への積極的な参加 

◎みんなでチャレンジ！（実践編）

ワーク
ショップ

▶Step 2 –（2） 地区の特性を知る

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員など、防災や福祉分野の関係者が集まり、自分が暮らしている地区の現状や理想とする将来像について話し合ってみましょう。



その後、参加者全員で出された意見等を情報共有しましょう。



- 計画書作成に向けた作業工程箇所
別添「地区防災計画（記入例）」 66ページ～
- 3 地区の概要
 - （1）地区の特性
 - （2）予想される災害リスク（風水害・地震）
 - （3）過去の災害例

過去の災害について知る

皆さんの住む地区で想定される災害には、どのようなものがあるでしょうか。

日本は、その位置、地形、地質、気候等の自然的な条件から、暴風、竜巻、豪雨、洪水、がけ崩れ、地すべり、土石流、高潮、地震、津波、豪雪等による災害が発生しやすくなっています。

過去に発生した自然災害を調べ、どのような災害が起こり、どれほどの被害が発生したのか、対応の問題や課題があったのかなどを知ることは、地域コミュニティにおける災害対応を考える上で重要になります。

また、集中豪雨や台風に限らず、冬場の降雪による被害についても対策を検討してみましょう。




▶Step 2 – (3) 防災まち歩きの実施




□防災まち歩きは、自分の暮らしている地区を歩き、地区内の自然、施設、人、災害時に危険な箇所等を確認し、記録する作業です。

□「ヒト」「モノ」「環境」の特性に着目し、避難経路や避難先、安全な場所、危険な箇所、避難行動要支援者の住まいの地理的環境等について、現場で確認してみましょう。

 地図上や書類上では気づかなかった視点など、実際に歩くことで、「生の情報」を得ることができる。

□子どもから年配の方まで幅広い世代の参加を求めたり、「朝」「昼」「夜」と実施する時間帯を変えたりすることで、多様な情報を得ることができます。

 得られた情報を地図に記載したり、地区の写真を撮影して資料として保管することで、現状を住民に周知できる上、貴重な記録として次世代へ残すこともできる。


▶Step 2 – (4) 防災マップの作成



□防災まち歩きで集めた情報を整理し、「防災マップ」を作成します。

[マップに書き込む例]

安全な場所、危険な箇所、避難場所、災害時に活用できる資源の情報 等

 マップを作成し、可視化できるようにすることで情報を共有しやすくなり、災害時に必要な活動や避難経路等の検討資料として有効活用できる。

□コミュニティハウス等に貼り出すことにより、情報を共有することができる。

■作業ポイント 地区の特性の確認

■用意するもの ハザードマップ、白地図、付箋紙、カラーペン、丸シール（カラー） 等

■進め方 26 ページ参照

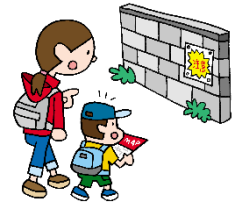
■防災まち歩きと防災マップについて

●防災まち歩き

- ・役に立つもの、危険なもの、その他（25ページのチェックポイント参照）を点検し、写真を撮影したり、地図に記録したりする。
- ・写真を撮影したときは、記録用紙に写真番号、被写体の名称等を記入する。

●防災まち歩きを行うグループの結成

- ・防災まち歩きを行う対象地区ごとにグループをつくる。



●地図にまとめる

- ・撮影した写真を印刷し、写真番号と名称を記入する。
- ・地図上の被写体の位置に丸シールを貼り、写真番号を書き込む。
- ・写真の位置を決めて地図に貼る。

●防災マップって何？

- ・防災マップは、災害に対して住民が安全に避難し、安心して生活するために必要な情報を集めた地図のことです。住民が作成し、地区で共有します。
- ・ハザードマップは、災害の被害予想等を示した地図のことです。市町村が作成し、住民に配付したり、ホームページで公開したりしています。

●マップを作成する目的は？

- ・地区の安全な場所や危険な場所を視覚的に認識する。
- ・被害予想と照合し、安全な避難計画をつくる。

●被害を想定する

- ・地区居住者で相談し、被害想定をする災害種別を確認する。
（例）土砂災害、河川洪水、地震、津波等



1 地区の現状等の確認



- 災害時の防災活動は、関係者で地区の危険箇所を把握の上、実際に避難経路を歩き、現状を確認するなどの平時の取組が欠かせません。
- 参加者が把握している情報や気づいたことをどんどん出し合い、地区の現状等を記録し、地図や付箋紙を使って整理してみましょう。

（1）参加者の例

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員、子ども会等の各種団体 等

（2）用意するもの

①防災まち歩き

防災まち歩き用の地図、ハザードマップ（市町村作成）、カメラ、バインダー、筆記用具、チェックシート、作業の進め方（手順書）

②防災マップの作成

ハザードマップ（市町村作成）、白地図、防災まち歩きで書き込んだ地図・写真、付箋紙（大・中）、カラーペン、丸シール（カラー）、作業の進め方（手順書）

（3）グループ分けと役割分担

防災まち歩きを実施する時は、1グループが6～10人程度になるように分けて、役割分担を決めておきましょう。

- リーダー・・・グループを引率
- カメラ役・・・危険な場所等の写真を撮影
- 記録役・・・地図や記録用紙（28ページ参照）に必要な情報を記入
- アシスタント・・・カメラ役のアシスタント
- 安全確認役・・・自動車等の往来に注意し、参加者の安全を確保

（4）確認の流れ

はじめに

- 地区防災計画の作成に取り組もうと思っても、防災に関する知識や経験がないと、具体的にイメージすることが難しく、作成が難航することもあります。
- 取り組むと決めたら早い段階で市町村に相談し、職員や有識者等の外部人材に参加してもらうなど、アドバイスを求めながら進めていきましょう。

防災まち歩き

- あらかじめ話し合った地区の危険箇所等について、実際に歩きながら点検します。
- 避難するときに支障となるものや危険なもの、避難場所等を地図や記録用紙に記入し、写真を撮影していきます。

防災マップ

- 防災まち歩きの結果を整理し、地図に記入します。撮影した写真も地図に貼り付けていきます。

まとめ

- 白地図に情報を整理し、防災マップを完成させましょう。その後、地区居住者全員で情報を共有しましょう。
- 地区の資源は時間とともに変化するため、定期的に見直しましょう。

■防災まち歩きと防災マップ作成のチェックポイント

●役に立つもの

No	分類	例
1	人が集まる場所	学校、集会所、公民館、公園、広場、神社、寺、駐車場
2	火災消火	防火水槽（水）、消火栓（栓）、ホース収納庫（ホ）、 消防団詰所（詰）
3	物資の調達等	自動販売機（自）、店舗、企業、工場
4	医療関係	病院、医院、薬局、AED（A）
5	防犯、防災	交番、警察署、消防署、市役所、防災倉庫
6	生活	ゴミステーション（ゴ）、広報掲示板（掲）、公衆電話（公）

●危険なもの

No	分類	例
1	壊れそうなもの、 落ちる、飛んでいくもの	空き家、ブロック塀、落ちそうな看板、飛びそうなトタン屋根、 古いコンクリート構造物
2	道路	狭い道路、トンネル、古い歩道橋
3	水辺、低湿地	川、沼、池、ため池、湿地帯、用水路
4	傾斜地	がけ、急傾斜地、岩が落ちてきそうな場所

●その他

No	分類	例
1	字界	地区と地区の境界、行政区の境
2	災害履歴	過去に災害があった場所
3	その他	行き止まり、暗がり、孤立したところ

◎みんなでチャレンジ！（実践編）

ワーク
シヨップ

▶Step 2 –（3） 防災まち歩きの実施

▶Step 2 –（4） 防災マップの作成

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員など、防災や福祉分野の関係者が集まって、防災まち歩きを行ってみましょう。

その後、参加者全員で白地図に情報を整理し、防災マップを作成しましょう。



- 計画書作成に向けた作業工程箇所
別添「地区防災計画（記入例）」 66ページ～
- 3 地区の概要
 - （1）地区の特性
 - （2）予想される災害リスク（風水害・地震）
 - （3）過去の災害例

（様式）

防災まち歩き・防災マップ作成 グループ編成表

■日 時： 年 月 日（ ） ○○：○○～○○：○○

■天 候： _____

■対象地区： _____

役	氏名	役割	準備物
リ - ダ -		グループのリーダー 意見の取りまとめ、記録の指示	記録用紙 筆記用具、バインダー
カ メ ラ		被写体を撮影	カメラ（チェキやデジタルカメラ等）
撮影記録		写真に番号をつけて、記録用紙に写真番号や被写体の名称等を記入	記録用紙 筆記用具、バインダー
地図記録		地図上に写真番号を記録	A3地図 筆記用具、バインダー
点検1隊		役に立つものを見つける	
点検2隊		危険なものを見つける	

- ※1 安全に十分配慮すること。
- ※2 私有地に入らないこと。
- ※3 大きな声を出すなどの迷惑行為は慎むこと。

（様式）

防災まち歩き・防災マップ作成 記録用紙

■日 時： 年 月 日（ ） ○○：○○～○○：○○

■天 候： _____

■対象地区： _____

写真 番号	役に 立つもの	危険 なもの	その他	名称	特記事項

Step 3

地区に必要な防災活動を検討する。



▶ 平時と災害時の防災活動を検討してみよう！



- 地区の状況を確認した後、地区に必要な防災活動について具体的な検討に入りましょう。下表も参考にしつつ、これまでに把握した地区の特性を再確認しながら、必要と思われる活動を挙げて話し合しましょう。
- 防災活動は、災害時だけに限らず、平時の活動も検討する必要があります。平時、災害警戒時、応急対策時、復旧・復興時といった各段階に分けて考えてみましょう。
- 地区の活動（共助）だけでなく、地区防災計画作成の取組を通じて、自助や公助との関係についても合わせて整理しましょう。

■ 進め方

- ✓ 必要な活動を挙げたら、その場面を想定し、活動内容を具体的に考えます。
- ✓ 一つ一つの活動について、「誰が」「何を」「どれだけ」「どのようにすべきか」を検討し、地区居住者等がどのように活動すればよいかイメージできるように具体化していきましょう。
- ✓ 平時及び災害時の活動体制を検討してみましょう。

■ 防災活動の内容検討

地区防災計画の項目検討（主要地区の計画比較） 93 ページ参照

	[平時]		[災害]				
			直前	初動	応急	復旧	復興
誰が							
何を							
どれだけ							
どのように							

自分は何をすべきか？ / みんなで何ができるか？

▶ 活動の発展性

- ・自治体と連携する
- ・地域の活動と連携する
- ・他の組織と話し合う
- ・取組を発信する

▶ 災害時の対応力の向上

- ・事前対策を行う
- ・訓練を行う
- ・中身を改善する

〔想定される防災活動の例〕

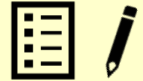
平時	災害警戒時	応急対策時	復旧・復興時
<input type="checkbox"/> 防災訓練、避難訓練の実施（情報収集・共有・伝達訓練を含む） <input type="checkbox"/> 活動体制の整備 <input type="checkbox"/> 連絡体制の整備 <input type="checkbox"/> 防災マップの作成 <input type="checkbox"/> 避難経路の確認 <input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所、指定避難所等の確認 <input type="checkbox"/> 避難行動要支援者の避難支援など、地域で必要となる支援の確認（見守りや声かけ） <input type="checkbox"/> 食料や資機材の備蓄 <input type="checkbox"/> 救助技術の取得 <input type="checkbox"/> 防災教育の普及啓発活動	<input type="checkbox"/> 情報収集・共有・伝達 <input type="checkbox"/> 連絡体制の整備 <input type="checkbox"/> 状況把握（見回りや所在確認） <input type="checkbox"/> 防災気象情報の入手・確認 <input type="checkbox"/> 避難判断、避難行動等	<input type="checkbox"/> 身の安全の確保 <input type="checkbox"/> 初期消火 <input type="checkbox"/> 住民による助け合い <input type="checkbox"/> 救出及び救助 <input type="checkbox"/> 避難誘導、避難支援 <input type="checkbox"/> 情報収集・共有・伝達 <input type="checkbox"/> 物資の仕分け、炊き出し <input type="checkbox"/> 避難所運営、在宅避難者等への支援	<input type="checkbox"/> 被災者に対する地域コミュニティ全体での相互支援 <input type="checkbox"/> 行政関係者、学識経験者等が連携し、地域の理解を得て、速やかな復旧・復興の活動を促進
消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携			

〔防災資機材の例〕

目的	防災資機材の例
情報収集・共有・伝達	携帯用無線機、拡声器、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ用紙、油性マジック 等
初期消火	可動式動力ポンプ、防火水槽、ホース、格納器具一式、消火器、防火衣、ヘルメット、水バケツ、防火移動 等
水防	救命ボート、救命胴衣、防水シート、シャベル、ツルハシ、スコップ、ロープ、土のう袋、手袋 等
救出	バール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、防煙・防塵マスク 等
救護	担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベッド 等
避難所運営	リヤカー、発電機、警報器具、携帯用投光器、標識版、標識、強力ライト、簡易トイレ、寝袋、組立式シャワー 等
給食・給水	炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク、飲料用水槽 等
訓練・防災教育	消火訓練用水消火器、模擬訓練資機材、組立式水槽 等
その他	簡易機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器 等

Step 4

地区防災計画（素案）を取りまとめる。



▶ 地区防災計画（素案）を作成しよう！



- 防災活動の内容や体制を検討したら、地区防災計画（素案）の作成に着手しましょう。
- 計画（素案）は、市町村防災会議に提案（計画提案）できます。
- 提案された計画（素案）は、市町村防災会議で審議され、地域防災計画に定める必要があると判断された場合、同計画に定められることとなります。

■ 進め方

- ✓ 計画の様式や必要な項目については、市町村職員や防災の専門家の意見を聞きながら、進めましょう。
- ✓ 地区をより良くするためには、多様な主体が参画した話し合いが必要です。それぞれの視点から出される意見を大切にして取りまとめてみましょう。

[ポイント]

- 61 ページから紹介している記入例や項目例は参考情報です。同じ項目や内容にする必要はありません。地区の実情に応じて作成してみましょう。
- 計画は一から作成する必要はありません。地区で引き継がれている書き物があるときは、それをうまく活用しましょう。
- 地区の現状や想定される災害リスクを確認しつつ、「できていること」「できていないこと」に分け、これまでの防災活動を整理してみましょう。
- 「みんなに知っておいてほしいこと」「ルールにしておきたいこと」を話し合い、その結果を文書にまとめていきましょう。
- 最初からたくさんの項目を計画に盛り込む必要はありません。できることから取り組み、少しずつ項目を増やしていきましょう。



Step 5

防災訓練を実施する。



▶ 防災訓練を実施しよう！



- 地区防災計画作成の取組は、計画を立てるだけでなく、計画に基づいた活動を実践することも大切です。防災訓練を通して体制が機能し、実効性のある活動ができるかを確認してみましょう。
- 防災訓練を振り返り、課題を整理してみましょう。防災訓練を行うと、想定と違ったり、うまく体制が機能しなかったりすることがあります。一つずつ解決し、改善していきましょう。

■ 進め方

- ✓ 訓練で参加者一人ひとりが考えながら行動できるよう、実災害に近い状況を設定するとより効果的です。一から準備すると大変です。市町村が実施する防災訓練とあわせて行うことも有効ですので、相談してみましょう。
- ✓ 訓練を行うことで課題が見えてきます。訓練の結果を参加者全員で共有し、計画の見直しにつなげましょう。
- ✓ 住民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という意識を持つことが大切です。こうした機会に日頃から水、食料、生活用品の備蓄や非常持出品を準備し、災害に備えるよう、地域住民への啓発にも力を入れましょう。
- ✓ 自主防災組織の関係者等は、避難支援の際に必要な資機材の準備や点検もしておきましょう。

[ポイント]

- さまざまな立場からの意見や助言が得られるよう、できるだけ幅広い分野の関係者に参加してもらいましょう（例：自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、防災士、避難行動要支援者、要支援者の家族、民生委員、市町村職員等）。
- 円滑に避難ができるよう、避難行動要支援者自身も非常持出品袋の準備や身支度など、避難準備に努めましょう。
- 振り返りは、記憶が確かな訓練直後に行うことが望ましいです。



Step 6

取組を振り返り、素案の内容を見直す。



▶地区防災計画（素案）を見直そう！



- 防災訓練で明らかになった課題等を踏まえ、地区防災計画（素案）を見直しましょう。
- 地区防災計画は、一度作成したら終わりではありません。防災訓練で体制がうまく機能しなかったり、年月を経て関係者や居住者の顔ぶれが変わったりすることもあるため、定期的な見直しが必要となります。

3 話し合いの進め方



(1) 話し合いのポイント

①メンバーが参加しやすい頻度や時間帯を設定

話し合いの回数、開催時期、全体スケジュールなど、今後の見通しを決めて、関係者と共有しましょう。

【話し合う人数】

- 今後の見通しを話し合う場に、必ずしも大勢の方に集まってもらう必要はありません。中心的な役割を担う方や話し合いに入ってほしい方など、限られた人数のほうが議論しやすく、方向性も定まりやすい場合もあります。
- 全体で話し合うときも、常に多くの住民に集まってもらう必要はありません。テーマや内容に応じて、人数を検討してみましょう。

【全体スケジュール】

- 全体スケジュールをいったん決めたとしても、必ず、その通りに進める必要はありません。進捗状況を確認し参加者の意見を聞きつつ、柔軟に調整しましょう。

【開催頻度】

- 準備する時間を考慮すると、1～2ヶ月に1回程度の開催が望ましいですが、地域の実情に応じて、無理のない期間で設定しましょう。
- 様々な方が参加できるよう、参加しやすい曜日や時間帯も検討してみましょう。

②各回の目標や狙いを参加者で共有

事前に目標や狙いを決めて参加者に伝えておくことで、何について話し合うかが明確になり、有意義な議論につながります。

また、当日配付する会議次第にも目標等を明記しておくことで、議論する内容がわかりやすくなり、話し合いが活性化されます。



③役割分担の決定

プログラムに合わせて司会や説明者、記録係等の役割分担を決めましょう。

④少人数に分かれて意見交換

参加者全員が意見を出せるよう、参加者の人数に応じてグループ分けを行い、グループごとに話し合い、意見をまとめていきましょう。これを「ワークショップ形式による話し合い」といいます。

意見は付箋紙に書くと整理しやすくなります。

[所要時間]

- 全員が意見を出せるよう、テーマや人数に応じて時間を配分しましょう。
- 話し合い疲れしないよう、まずは20～30分を目安に設定してみましょう。

[グループ分け]

- グループ全員が意見を出し合えるよう、グループの人数を調整しましょう。
- 世代、性別、所属等にできるだけ偏りが出ないようにしましょう。

[準備物]

- 模造紙（グループ数を用意）
- 付箋紙（大・中／グループ数を用意）
- マジック（参加者数を用意）

[役割分担]

- 全体を取りまとめる事務局担当（複数人体制）を決める。
- グループごとに進行役や記録役を決めておく。

⑤各回の最後に振り返りの時間を設定

議論の結果をまとめるため、最後に振り返りの時間を設け、出された意見等を参加者で共有しましょう。ホワイトボードや模造紙等に記録しながら進めると、振り返りやすくなります。

【ポイント】

- ✓ 意見は文章ではなく、「キーワード」で書くのがポイントです。特に大事なキーワードは色を付けて強調すると最後に確認しやすくなります。
- ✓ 意見は付箋紙に書くと、整理しやすくなります。



⑥次回の検討テーマを事前に連絡

次回の話し合いまでに自身の考えを整理して臨むことができるよう、事前に検討テーマを参加者に連絡しましょう。

例えば、次回の検討テーマとして水害について話し合うときは、マイ・タイムラインの作成など、事前に各自でできる作業を課題として用意することで、検討テーマのイメージがより具体化され、効果的な議論につながります。

下記資料は、県モデル事業で計画作成に取り組んだ地区で使用したものです。

■地区防災計画作成のスケジュール（進捗管理表）

●●市●●地区 地区防災計画作成スケジュール（案） 92 ページ参照

- ・スケジュールについては、できるだけ見える化しましょう。

取組の中で、現在、自分達がどこを進んでいるかを確認でき、今後の方向性を参加者同士で共有できるようになるので、議論が活性化します。

- ・パソコンの操作が得意な方に話し合いに参加してもらいましょう。

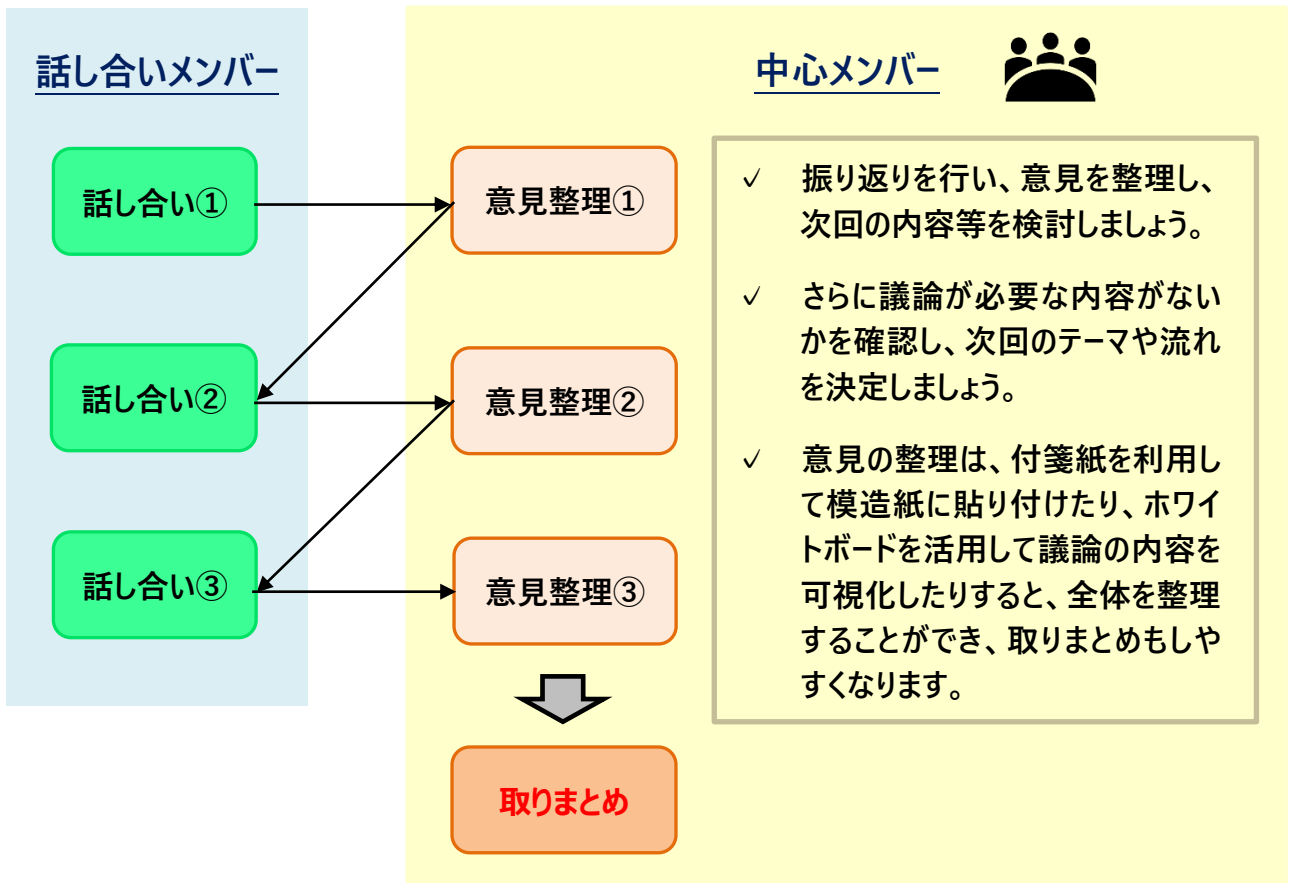
■計画の内容検討

地区防災計画の項目検討（主要地区の計画比較） 93 ページ参照

- ・計画に入れる項目に迷ったときは参考に見てみましょう。

（2）意見の整理等

議論を積み重ねていくため、話し合い終了後、会長や役員等の中心メンバーで出された意見を整理し、次回の内容等を練りましょう。



（3）具体的な進め方

プログラム例（39～51 ページ参照）を参考にしながら進めてみましょう。

開催案内を作成して参加者を幅広く呼びかけましょう。

[各回共通で準備するもの]

- ✓ 名札等（お互いの名前が分かるように、参加者全員が着用しましょう）
- ✓ 受付名簿
- ✓ 白地図または住宅地図、模造紙、ハザードマップ、付箋紙、カラーペン



■話し合いの流れ（参考例）

第1回	<ul style="list-style-type: none">・地区防災計画について（勉強会）・地区の災害リスクの把握と資源等の確認
第2回	<ul style="list-style-type: none">・防災まち歩きの実施・防災マップの作成
第3回	<ul style="list-style-type: none">・活動体制の検討
第4回	<ul style="list-style-type: none">・マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムラインの検討・各班の具体的な防災活動の検討
第5回	<ul style="list-style-type: none">・震災時における防災活動の検討
第6回	<ul style="list-style-type: none">・地区防災計画（素案）の披露

各回の話し合いのプログラム例 39～51 ページ参照

プログラム例

（会議次第）

■第1回 地区防災計画について（勉強会の開催）

1 目 標

- 地区防災計画を理解する。
- 参加者全員で話し合いのスケジュールと進め方を共有する。

2 資 料

- 地区防災計画制度等の説明資料
- ハザードマップ等の地区の特性に関する資料

3 プログラム

[司会：〇〇]

1 開会

2 地区防災計画とは

3 質疑応答

4 ワークショップ 地区の特性と資源を考えよう

・Aグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Bグループ：……

5 閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約5分	1 開会 (1) 挨拶 (2) 次第の確認	[挨拶の例] この地区における防災の課題としては・・・だ。地区に合った独自の防災計画を作っていきたい。
約20分	2 地区防災計画とは	「地区防災計画とは」「地区防災計画の内容」について説明する。
約15分	3 質疑応答	計画について参加者から質疑応答を受ける。
約60分 約15分	4 ワークショップ (1) グループごとに意見出し (2) 全員で共有	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 話し合いのルールや付箋紙の書き方を説明する。 ✓ 地区の課題、特徴、冠水地点など、地区について知っていることや感じていることを付箋紙に記載し、意見を出し合う。 ✓ 意見は、「資源」や「課題」に分類し、模造紙に分類ごとに分けて貼り付け（下記参照）、白地図等に資源の名称等を記入し、その位置に印をつける。 ✓ 各グループが意見を発表し、全員で共有する。 <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の意見は最後まで聞き、否定しないこと。 ・1つの意見を1枚の付箋紙に簡潔に記載する。
約5分	5 閉会 (1) 次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

■ワークショップでの意見の整理表（記入例）

地区の強いところ	地区の強みを生かす
<ul style="list-style-type: none"> ・土地が高い ・防災士、看護師、土木業者がいる ・ご近所づきあいがある ・小中学校が近い 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職から対処方法を習得 ・避難訓練の実施 ・畑等を利用した一時避難場所の確保 ・事業所と災害時の協定を締結
地区の弱いところ	脅威＝弱点×災害
<ul style="list-style-type: none"> ・近くに池や川がある ・道路が狭い ・平日昼間に支援する人がいない ・医療施設や商業施設がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・池の決壊、河川の氾濫 ・道路が狭く、救助の支障となる ・災害時の住家の孤立 ・災害対応の人材不足

（会議次第）

■第2回 防災まち歩きの実施と防災マップの作成

1 目 標

- 前回の話し合いで共有した地区の資源や課題等を現地で確認する。
- 防災マップを作成し、地区の資源や課題を可視化する。
- 優先して検討すべき事項を整理する。

2 資 料

- 防災まち歩きのルートを記入した地図（前回のワークショップで「資源」や「課題」を書き込んだ白地図、または住宅地図を使用）、バインダー、デジタルカメラ（チェキ）、フィルム、メジャー、筆記用具
- ハザードマップ、カラーペン、付箋紙、丸シール（カラー）

3 プログラム

[司会：〇〇]

1 開会

2 前回の振り返り

3 防災まち歩き

4 防災マップの作成

・Aグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Bグループ：……

5 質疑応答

6 閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約5分	1 開会 (1) 挨拶 (2) 次第の確認	<p>[挨拶の例] 前回整理した地区の強みや弱みを踏まえつつ、地区を歩いた時に気づいたことを参加者で発表し、課題を整理してもらいたい。</p> <p>[ポイント] ✓ 災害時の映像や写真を見て、地区で災害が起きた場合のイメージを共有し、意識を高める。</p>
約10分	2 前回の振り返り	前回の話し合いで出された主な意見を紹介
約60分	3 防災まち歩き (1) 準備 (2) まち歩き (3) 休憩	<p>地区を歩きながら、グループごとに資源や危険箇所等をカメラで撮影し、地図に記録する。</p> <p>[ポイント] ✓ リーダー、撮影役、記録役、発見役等の役割を決める。</p>
約60分 約15分	4 防災マップ作成 (1) グループで整理 (2) 全員で共有	<p>まち歩きで得られた情報（資源や危険箇所等）と写真を整理し、防災マップを作成する。</p> <p>■資源（例） 避難できそうな高い建物、公園や広場、避難するときに通る道路、コンビニや店舗、企業や工場、防災倉庫、自動販売機、医院や薬局、AED設置場所、防火水槽、消火栓、ホース収納庫、ごみステーション、広報掲示板</p> <p>■危険なもの（例） 川、ため池、用水路、幅の狭い道路、冠水しやすい場所、ブロック塀、段差のある箇所</p> <p>■その他 地区の境界、過去に災害が発生した場所</p> <p>[進め方] ✓ 気づいたことは、付箋紙に書く。 ✓ 各グループの意見を発表し、全員で共有する。</p>
約5分	5 閉会 (1) 次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第3回 活動体制の検討

1 目 標

- 災害時の活動体制を検討する。
- 災害時に優先して実施しなければならない防災活動を検討する。
- マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムラインを学ぶ。（53 ページ参照）

2 資 料

- 防災活動を行うときの班構成と役割（72 ページ参照）
- 災害時の防災活動例の一覧
- マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムラインの説明資料

3 プログラム

[司会：〇〇]

1 開会

2 前回の振り返り

3 活動体制について

4 災害時に優先して実施しなければならない防災活動の検討

・Aグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Bグループ：……

5 マイ・タイムラインについて

6 質疑応答

7 閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約5分	1 開会 (1) 挨拶 (2) 次第の確認	[挨拶の例] 地区の強みや弱みを踏まえ、どのような体制を構築すべきか、意見を出し合っていきたい。
約5分 約10分	2 前回の振り返り (1) 説明 (2) 意見交換	前回作成した防災マップについて、再度内容を確認し、意見交換を行う。 [ポイント] ✓必要に応じて追加や修正を行う。
約10分 約20分	3 活動体制について (1) 説明 (2) 意見出し	活動体制の班構成と役割の案を説明する。 [ポイント] ✓グループで意見交換を行い、気づいたことや意見を付箋紙に書く。
約10分 約25分 約15分	4 災害時に優先して実施しなければならない防災活動の検討 (1) 説明 (2) 意見出し (3) 全体共有	優先して実施しなければならない防災活動について意見交換を行う。 ■共通事項（例） ・情報の取得及び地区住民への伝達の方法 ・地区災害対策本部の立ち上げの基準（時期やメンバーの検討、連絡体制の整備） ・避難行動要支援者への対応 ■風水害（例） ・安否確認、避難誘導 ・避難のタイミング（避難スイッチの検討） ・避難支援の対象者と支援者の抽出 ・連絡体制の整備 ・避難先や避難経路の検討 ■地震（例） ・安否確認
約10分	5 マイ・タイムラインについて (宿題の説明)	マイ・タイムラインの意義と内容を説明し、次回までに作成するよう説明する（55ページ参照）。
約5分	6 閉会 (1) 次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第4回 タイムライン等の検討

1 目 標

- マイ・タイムラインを作成し、自分の動きを時系列で確認する。
- コミュニティ・タイムラインを作成し、地区の動きを時系列で確認する。
- 水害時における各班の具体的な防災活動を検討する。

2 資 料

- 説明資料（マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムライン）
- ワークシート（マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムライン）

3 プログラム

[司会：〇〇]

1 開会

2 前回の振り返り

3 マイ・タイムラインと水害時における防災活動等の検討

・Aグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Bグループ：……

4 質疑応答

5 閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約5分	1 開会 (1) 挨拶 (2) 次第の確認	[挨拶の例] 前回検討した体制で、水害時における防災活動の具体的な内容や必要な準備などを検討していきたい。
約10分 約10分	2 前回の振り返り (1) 説明 (2) 意見交換	前回出た主な意見を紹介し、意見交換を行う。
約15分 約50分 約20分	3 マイ・タイムラインと水害時における防災活動等の検討 (1) マイ・タイムラインについて (2) 意見出し (3) 全員共有	前回の宿題（マイ・タイムライン）をグループ内で発表し、地区に合った具体的な防災活動とコミュニティ・タイムラインについて意見交換を行う。 ■各班の具体的な防災活動（例） [総務班] ・全体調整、要配慮者の把握 ・被害・避難情報の集約、把握 [情報班] ・啓発、普及、情報発信 ・災害時の情報収集・伝達 [安否確認・避難誘導班] ・避難経路の点検や確認 ・災害時の安否確認・避難誘導 [物資班] ・機材の点検と整備 ・災害時の炊き出し、配食等 [福祉・衛生班] ・要配慮者の支援体制の整備 ・ゴミ処理、トイレ・防疫対策 [ポイント] ✓気づいたことは、付箋紙に書き、項目ごとに整理する。 ✓グループで意見交換を行い、全員で共有する。
約5分	4 閉会 (1) 次回案内	次回のテーマをアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第5回 震災時における防災活動の検討

1 目 標

- 揺れの大きさや被害想定など地震のリスクを学ぶ。
- 震災時における具体的な防災活動を検討する。

2 資 料

- ハザードマップ（対象区域を拡大したものを用意）
- ワークシート（マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムライン）

3 プログラム

[司会：〇〇]

1 開会

2 前回の振り返り

3 震災時における防災活動の検討

・Aグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Bグループ：……

4 質疑応答

5 閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約5分	1 開会 (1) 挨拶 (2) 次第の確認	[挨拶の例] 今回は、震災時における防災活動の具体的な内容や必要な準備について、多くの意見を出し合っていたい。
約10分 約10分	2 前回の振り返り (1) 説明 (2) 意見交換 (適宜実施)	前回出た主な意見を紹介し、必要に応じて意見交換を行う。
約15分 約55分 約20分	3 震災時における防災活動 (1) 説明 (2) グループごとに意見出し (3) 全体で共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを活用し、地区の「揺れの大きさ」「建物倒壊危険度」「液状化危険度」について説明する。 ・地区の具体的な防災活動について、意見交換を行う。 [ポイント] <ul style="list-style-type: none"> ✓気づいたことは、付箋紙に書き、項目ごとに整理する。 ✓グループで意見交換を行い、全員で共有する。
約5分	4 閉会 (1) 次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第6回 地区防災計画（素案）の説明

1 目標

検討経過を説明し、地区防災計画の内容について理解を深めてもらう。

2 資料

地区防災計画（素案）

3 プログラム

[司会：〇〇]

1 開会

2 これまでの検討について

3 地区防災計画（素案）と防災マップについて

4 今後の防災活動を見据えた企画等の検討

・Aグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Bグループ：……

5 質疑応答

6 閉会

（プログラム）

時間	次第	内容
約5分	1 開会 (1) 挨拶 (2) 次第の確認	[挨拶の例] これまでの取組を整理し、地区の防災活動について文書に取りまとめた。今後、防災訓練等を通じて体制や活動を確認し、計画の実効性を高めていきたい。
約10分	2 これまでの検討について	これまでの検討経過を説明する。
約30分 約20分	3 地区防災計画（素案）と防災マップについて (1) 地区防災計画（素案）と防災マップの説明 (2) 意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の映像を映すなど、災害への備えの必要性について意識を高めてもらう。 ・地区防災計画（素案）と防災マップを説明する。 ・地区防災計画（素案）や防災マップの内容や今後の防災活動の進め方について、意見交換を行う。 ※地区防災計画（素案）を市町村防災会議に提案していくことをアナウンス
約45分	4 今後の防災活動を見据えた企画等の検討 (1) 防災レクリエーション (2) 翌年度の活動計画について	[ポイント] ✓今後の防災意識の意欲向上につながる企画等を提示する。 (1) 災害への備えや防災活動の大切さを再認識するため、幅広い世代が楽しみながら防災について学ぶ防災レクリエーションなど（例：防災クイズ、避難所運営ゲーム等） (2) 翌年度に取り組む防災活動とスケジュール、進め方の検討（防災訓練の内容に関する意見交換等）
約5分	5 閉会	
	終了	
	中心メンバーによる打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・最終回と話し合いを通しての反省、感想 ・今後の進め方の確認

